

小学生1・2年生女子 1.5km

母の成美さんは、娘の優勝について「一番になってしまった。体を動かすことが大好きな子です。本当は、本人より速い人がいるということを知ってほしかった気持ちもありました。でも、うれしです。」と喜びの気持ちを語った。とても仲がよく、素敵な笑顔の2人でした。

第1位

大和田 瑠奈^{るな}さん (広洋台)
タイム 0:05:25

負けたくない
自分にも、他人にも



「なわとびが大好きです。」と笑顔を見せたのは、小学生1・2年生女子1・5kmで優勝した大和田瑠奈さん。取材中もなわとびを握りしめていた。なわとびでは難易度の高い技「はやぶさ」をやつてのける男子顔負けの実力の持ち主。そんな運動能力がマラソンにもいかされた。体操教室で鍛えた体の柔軟さとバランス感覚に、負けず嫌いの気持ちも兼ね備えた瑠奈さんは、自分にも、他の選手にも負けなかった。

「レース参加のきっかけは走ってみたいと思えたから。レース前には、二ツ沼総合公園駐車場を大回りして練習しました。優勝したときはうれしかったです。将来は体操の先生になりたいです。」と話した。

一般男子 (50歳以上) 5km

第2位

中島 武^{たけ}さん (広洋台)
タイム 0:18:44

ランニングでひらめきを



毎朝5時半に起きて40分くらいランニングするのが日課の中島さん。雨がふっても、どんなに寒くても休むことはない。みかんロードレースへの参加は、今までの町民マラソンの延長という思いだった。「第1回記念の大会なので、優勝したかった。優勝者とは1分以上差が開いたので実力の差を感じた。」と悔しさをにじませた。中島さんの学生時代は自転車競技の選手。冬場の走り込みが、長距離走を本格的に始めるきっかけとなった。

短距離より長距離が得意だった中島さんは「実は、30年以上前、広野町民マラソンに出場し、オーブン参加町外の部で優勝したことがあるんです。」と振り返った。

走ることでいいアイデアやひらめきが浮かび、迷いや悩みがふつ飛ぶという。ぜひ皆さんにもランニングをおすすめしたいと語った。今後の目標は広野町が福島駅伝で取賞をとることだ。



第1回 広野町 みかんロードレース大会

町内から参加の入賞者に聞く

第1回広野町みかんロードレースが3月28日、二ツ沼総合公園をスタート・ゴールに開かれ、町内外から大勢のランナーが参加しました。また、町民の皆さんや各種団体の方々がボランティアで参加し、ランナーを温かく迎えました。今回、地元広野町からレースに参加し、見事入賞を果たしたランナーにお話をうかがいました。
※エントリー時の住所が広野町の方を取材しました。